

# 淡路市人権教育研究協議会 定期総会 開催

5月24日(木) 市役所2号館3階大会議室において、淡路市人権教育研究協議会の定期総会を開催しました。市内の各種団体、行政、学校から選任された代議員が集まり、今年度の事業計画及び予算等を確認しました。今年度は津名地区及び北淡地区の支部長が変わっています。

今年度の事業として、「2018じんけん市民講座」「第14回人権を考える集い」「人権シネマの集い」を計画しています。また、淡路地区研究大会(洲本市)、県中央大会(姫路市)、全国大会(滋賀県)にも積極的に参加していきます。



文集「こころ」、人権広報「まるごとじんけん」、研究・啓発(人権尊重ポスター・標語募集)、学校教育代表者委員会(学校人権教育の推進)と、それぞれの委員会で、市民の視点から分かりやすく共感が得られるようにいろいろと考えていきます

## 役員紹介

- 会長 山添 繁 (二宮支部長)  
副会長 上原 孝 (津名支部長)  
栗山 顕雄 (東浦支部長)  
坂惠 正和 (岩屋支部長)  
坂惠 正和 (北淡支部長)

## 会長あいさつ



### 山添 繁

#### 「人権の世間を」

今年、「世界人権宣言」が出されて70年という節目の年にあたります。その第一条では、「全ての人間は生まれながらにして自由であり、かつ尊厳と権利とについて平等である。」と謳われています。しかし、残念ながら、世界各地においては、人間としての自由や尊厳がないがしろにされる状況がみられます。

我が国においては、どうでしょうか。一人ひとりの尊厳が守られているでしょうか。子どもたちの7人に1人が相対的貧困の状態におかれ、淡路市においても子ども食堂が開設されています。貧困の連鎖を食い止めなければなりません。また、いじめによって自ら命を絶つ事象も後を絶ちません。遺族の思いを真摯に受け止めない調査報告が出され、よけいに遺族を苦しめているという記事も目立ちます。未来を託す子どもたちに、私たち大人の矜持を示したいものです。

一方で、まちがいに人権感覚や人権意識の高まりを実感することもあります。近畿大学の奥田均教授が語っている「人権の世間」の広がりです。「人権の世間」の反対は、「人権侵害を受けても、当事者は黙って耐えなさい」、「そっとしておけば自然になくなる」、「寝た子を起こすから意識してしまう」という「差別への我慢を強いる世間」です。「自分とは関係ない。他人事と考える世間」です。このような世間では、だれもが、差別の被害者にも、加害者にもなる可能性があります。差別が存在する社会では、被害者だけではなく、加害者をも不幸にするということが実証されています。

「人権の世間」は、最近の事象で言えば、「セクシユアル・ハラスメント」において、形作られつつあると思います。かつては許されてきたこと、見逃されてきたことを、「おかしい」と告発し、「そうだ、その通りだ」と共感する世論の高まりです。この世間形成力の大きな要因は、世界的な人権をめぐる潮流と、「男女雇用機会均等法」の改正という社会規範としての法律がもつパワーです。「無知は無力であり、差別につながる」「変わらなければ、その人の値打ちをさげすまう」という意識を共有する社会を目指し、淡路市人権教育研究協議会は、確かな歩みが続けていきます。